



## 👁️👁️ みどころ

滅亡の危機に瀕した地球から、壮大な人類移住計画を！そんなテーマはハリウッド大作の『パッセンジャー』（16年）の専売！いやいや、製作費は安くても、アイデアと設定を面白く、恋愛劇もスリリングに展開させれば・・・。

本作は、M・ナイト・シャマラン監督と同じく、いやそれ以上にネタバレ厳禁！製作費の安さをミエミエにしつつ、観客を惹きつける秀逸なアイデアはあなた自身の目でしっかりと！

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■夜1回だけの上映に掘り出し物あり！■□■

「シネ・リーブル梅田」や「テアトル梅田」では、夜1回だけ上映される映画や1週間限定で上映される小規模な映画がある。宣伝にカネをかけられないから、もちろんパンフレットもない。本作はそんなスペイン・コロンビア映画だから、もちろん監督の名前も俳優の名前も知らない。

しかし、チラシを見る限りヒロインは美人だし、地球移住計画、宇宙船の中でたった2人だけ、という設定は『パッセンジャー』（16年）と同じ。『パッセンジャー』は、ハリウッド大作でジェニファー・ローレンスとクリス・プラットという2人のビッグネームが売りだったが、内容はイマイチだった（『シネマルーム39』未掲載）。ところが、低予算のB級映画ながら、本作の出来はなかなかのもの！

私はかつて天六の場末にあったホクテン座で『地球でたったふたり』（07年）を観て「掘り出し物」と絶賛したが（『シネマルーム22』264頁参照）、本作もそれと同じ。こりゃ、掘り出し物だ！

## ■□■ネタバレ厳禁のストーリー！でも、ここまではOK！■□■

M・ナイト・シャマラン監督の映画は「ネタバレ厳禁！」がつきものだが、「SFモノ」とされている本作もそうらしい。SFモノは必ずネタバレ厳禁となるわけではないのに、本作がそう厳命されているのは一体なぜ？

それは、本作導入部で登場する、①宇宙船の中で1人で20年間も過ごしているエレナ（クララ・ラゴ）の姿、②宇宙船の修理のために乗り込んできた技術者アレックス（アレックス・ゴンザレス）の姿、からは全く想像もできない展開がその後いろいろと用意されていたためだ。

そのため、『キネマ旬報』2017年8月下旬号でも、その書き方に苦勞していたが、ネタバレ厳禁だからといってストーリーを全く紹介しないわけにはいかない。そこでチラシに書かれているストーリーを紹介すると、それは次のとおりだ。

### 故障したスターシップを訪れたアレックス。彼こそが、エレナが初めて接触する運命の人だった。

エレナはまだ見ぬ未知の星を目指して、一人恒星間飛行を続けていた。一緒に飛び立った両親は既に見えない。近未来、過度の公害に汚染された地球には未来はなく、人類は新しい星への移住を必要としていた。

ある日、スペースシップの給気系統が故障し、エレナは近隣のスペースシップに救援信号を送る。その呼びかけに応じて姿を現したのが、エンジニアの青年アレックスだった。一目見て、互いに恋に陥る二人。

しかし、エレナはこの飛行に隠された秘密を知らなかった。それは、人類の未来を賭けた高度な実験だった。二人はなぜ出会ったのかー？！

## ■□■チラシの紹介（宣伝）文句は？■□■

また、本作についてのチラシの紹介（宣伝）は次のとおりなので引用しておく。

### 人類を救うために、二人は選ばれた。

汚染により死にゆく地球の代わりを見つけるために、エレナは恒星間飛行の旅に出た。

AI、ロボット、宇宙旅行、かつて空想とされていた未来は今、我々の目前に迫っている。

近年『ザ・マシーン』『インターステラー』『エクス・マキナ』『パッセンジャー』といった数々の本格SF映画の秀作が発表されてきたのも、映画が「アート」と呼ばれる最先端の表現だからだ。

映画専門誌VARIETYにおいて、「注目すべきスペインの若手映画製作者の一人」に選ばれた俊英アテム・クライチェの長編デビュー作は、この本格SF映画の本流に属するものである。

撮影はコロンビアで行われ、Netflixの人気番組『ナルコス』の制作チームが参加し、アテム・クライチェの描く未来観を形にしている。

出演者は『ザ・エンド』（2012）のクララ・ラゴ、『X-MEN：ファースト・ジェネレーション』（2011）のアレックス・ゴンザレスの若手実力派俳優二人を主人公に配し、ベレン・ルエダ（『ロスト・アイズ』（2010））アンドレス・バラ（『コレラの時代の愛』（2007））といった名優が脇を固める。

世界三大ファンタスティック映画祭の一つであるブリュッセル・ファンタスティック国際映画祭にオフィシャル・コンペティション作品として招待された注目の話題作がここに公開される。

## ■□■宇宙船の中で男女2人きり！その必然の展開は？■□■

『パッセンジャー』もその中盤は宇宙船内で生き残った（生き返った？）2人の恋愛ドラマになっていたが、本作でも導入部を観ただけで2人の恋愛模様の展開になっていくのはミエミエ。しかし、一方はこれからさらに20年かけて新しい惑星に向かっている宇宙船内の女性、他方はたまたまその宇宙船の修理にやってきた技術者の男だけに、2人の恋愛の継続は難しいのでは・・・？

これまで生きてきた20年間の中で、両親以外にはじめてみた人間であるアレックスと別れるとき、誰よりもエレナ自身がそう考えていたはずだ。ところが、エレナは知らないものの、観客はアレックスが出てきた場所をみると、アレレ・・・？こりゃ一体ナニ？なるほど、なるほど……。しかして、その後の展開は・・・？

## ■□■人類移住計画の描き方は？製作費は安くても上等！■□■

本作の邦題は『スターシップ9』だが、原題は『ORBITA9』。「オービター計画」とは何とも壮大な人類移住計画（プロジェクト）で、その責任者は科学者のヒューゴ（アンドレス・バラ）。アレックスはオービター計画の一員だが、日々のストレスもあり、アレックスにはセラピー担当の女医シルビア（ベレン・ルエダ）がついている。

本作導入部では、エレナの日常生活が描かれるが、中盤ではそんな大プロジェクトに従事している有能な若手技術者アレックスの活躍と日常生活が描かれる。しかし、それまでは順調だったアレックスの仕事面において、エレナと知り合ったアレックスには、さまざまな苦悩と葛藤が生まれてくることになるが、さてそれはナニ？そして、どうすればそれを解消することができるの？

本作の評論ではこれ以上書けないのが残念だが、その後は自分自身の目でしっかりと。

監督のインタビューによると、本作の製作費は300万ユーロ（約3億7500万円）らしい。ハリウッド大作とは雲泥の差だが、『パッセンジャー』に比べると本作の方がよほど面白く上出来！

2017（平成29）年9月5日記